

婦人科検診について

視 診

子宮頸部細胞診

経腔超音波

(検査は通常15分から20分程度で終了しますが、予約状況により多少お待ちいただくこともございますので、あらかじめご了承ください。)

視 診

腔鏡にて子宮頸部・腔内を観察します。子宮頸部のサイズ、開大の有無、腔内や頸部にある腫瘍、解剖学的奇形(腔中隔・重複子宮など)の有無を見ます。帯下の観察で腔炎が見つかることがあります。外陰部もあわせて視診します。

子宮頸部細胞診

子宮頸部の細胞を、小さなブラシなどで軽くこすりとり採取し、顕微鏡で観察して判定します。採取時の痛みはほとんどありません。検査の後にまれに少量の出血がありますが、心配ございません。また、高リスク型HPV感染の有無を判定するHPV-DNA検査も可能です。これにより将来、子宮頸がんが発症する危険度のある程度類推することが出来ます。具体的には、細胞診と同様に子宮頸部から細胞を採取し検査します。

また、HPV感染を予防するワクチン接種も可能です。(婦人科外来にて)
詳しくはお気軽に受付までお問い合わせください。

経腔超音波

超音波検査で、骨盤内を見ることができます。子宮筋層の病変(子宮筋腫など)や子宮内膜を観察することにより子宮内ポリープ・子宮内膜増殖症を見つけることが可能です。

また、卵巣の腫瘍(卵巣のう腫、卵巣癌など)も描出されますが卵巣癌には、突然発生するもの、また癌自体は小さくとも骨盤や腹腔内に急激に広がるものがあり、全ての卵巣がんを早期診断することは困難です。

受診にあたって

- 月経(生理)中は正確な結果が得られませんので月経を避けて検査をお受けください。
- 子宮頸部細胞診検査では、血液の混入・帯下(おりもの)の状況により細胞が十分に採取できない場合や、もしくはその後の検査条件により判定が困難な場合もございます。何卒ご了承ください。
- 妊娠中、またはその可能性がある方は、ご予約時に必ずお知らせください。

健康診断では妊娠中の方の検査は行っておりません。婦人科外来へご相談ください。



対話があるから医療技術が生きる
ジャパングリーンメディカルセンター